

H27年度自己評価表

青翔開智中学校・高等学校

中長期目標(学校ビジョン)	今年度の重点目標
「探究」型学習による発展的な学び実践。それを補完するためICT教育および図書教育充実を図る。 学校生活におけるあらゆる場面における「探究」的な姿勢を通じ、国際社会に通用するリーダーシップを発揮できる人間を育成する。	1、教科・科目として「探究」授業みならず、全教科指導・学習指導および学校生活全般における「探究」型学習・「探究」的姿勢実践、創造と体系化。 2、上記を円滑かつ効果的に推進するためICT教育および図書教育実践と体系化。 3、生徒と教員、保護者と連携を密にし、ともに学校を創造する。

年度当初				評価結果(年度末)	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価	自己評価および次年度の主な課題
重点目標1に対応	探究学習 A. SEIKAI6.1の習得。 ・1テーマ設定2情報収集3情報分析4論文5プレゼンテーション6評価の6つのステップを理解させ、各ステップにおける基本的な手法を習得させる。 B. 探究的姿勢の習得。 ・さまざまな出来事に対して、生徒が自ら疑問を抱き、解決に向けて計画を立て実行できる力を養う。	A. 青開学会(探究発表会)の開催。 ・発表に向けた準備段階において、SEIKAI6.1の手法の習得と実践を学ばせる。 B. グループワーク ・発問を多く取り入れた双方向型授業、アクティブラーニングの実践。 ・生徒が主体的に学習し、授業参画できる授業づくりを目指す。	A. 青開学会(探究発表会)アンケートにおける、自己評価・他者評価がB評価以上を目標とする。 B. 授業アンケート、教員アンケートによるアクティブラーニング、双方向型授業、グループワークの導入60%以上を目標とする。	A. 評価B B. 評価A	5点満点の評価アンケートの結果、自己評価3.3点、他者評価3.71点となり達成率60%を超えたためB評価とした。 B. 中学校導入56.4%。高等学校導入60.4%。導入目標60%に対し8割以上の達成のためA評価とした。
重点目標2に対応	ICT教育 A. iPadを用いたプレゼン資料作成。 B. 各授業におけるICT活用の推進 C. 情報モラルの習得	A. 生徒全員がiPadのアプリを用い、青開学会(探究発表会)用のスライド作成を行う。 B. 各授業でiPadのアプリやGoogleなどのサービスを使った授業を行う。 C-1. 情報モラル講演会を生徒・保護者それぞれ1年1回実施。 C-2. 現行のiPad利用ルールの見直しを行い、より良いルールに改正を行う。	A. iPad使用率90%以上を目指す。 B. 授業におけるICT利用アンケートを行い、ICT活用率60%以上を目指す。 C-1. 情報モラル講演会は実施の回数により評価する。 C-2. iPad利用ルールについてはICT委員会が主体となりルール改正の進捗状況の評価とする。	A. 評価A B. 評価A C-1. 評価A C-2. 評価A	A. 生徒全員がiPadでスライドを作成を行いプレゼンを実施した。 B. 中学校導入62.4%。高等学校導入64.8%。導入が60%を超えたためA評価とした。 C-1. 講演会を生徒・保護者向けにそれぞれ1回実施した。 C-2. iPad利用ルールはICT委員会がアンケートを実施しルール改正を1回実施した。よって総合的に判断しA評価とした。
重点目標2に対応	図書教育 A. 図書教育Base継続努力。 B. 教科学習へ図書館利用促進。そのための図書館と各教科との連携体制の整備。 C. 探究学習へ図書館利用促進。そのための図書館と探究委員会との連携体制の整備。 D. 図書委員会の活動の発展。	A. English Broadcast(英語読み聞かせ)実施。 B. 各教科との連携を図るためのシステムづくり。 C. 探究委員会との連携を図るためのシステムづくり。 D-1. 昨年度達成できなかった図書リクエスト数年間100件達成。 D-2. 各委員会との連携を図る。	A. 年間計画実施率100%を目指す。 B. ICT環境を活用したシステム等の創意工夫。 C. 定期的な会合と適切な評価基準の作成。 D. 生徒間での情報交換を活発にして図書館を利用した活動につなげる指導の実践。	A. 評価D B. 評価A C. 評価A D. 評価A	A. 実施できず。来年度見直し。 B. 新聞検索システムを導入し、各教科内で使用できる環境を構築した。 C. 毎週1回、教職員からなる探究委員会を実施。発表会の評価方法などの検討を実施した。 D. 図書リクエスト年間99件で目標をほぼ達成した。また図書委員会で毎月1回の図書イベントを実施、生徒間の情報交換を活発にする活動を実践した。
重点目標3に対応	学校創造 A. ・生徒会の創設から組織の確立 ・学校行事の創設から年間行事の確立 ・部活動の創部 ・校則の見直しから確定 B. ・保護者会(FTA)設立から組織の確立	A. ・委員会活動の組織化と規約作成 ・生徒による企画提案と教員による行事の差別化 ・部活動創部規定、部活動の組織の確立 ・生徒指導の確立 B. ・保護者会の組織化 ・各ワーキンググループ(WG)の組織化と連携の充実	A. A-1. 生徒会組織規約等の確立 A-2. 生徒の企画提案を各委員会1件以上を目指す A-3. 各委員会活動の企画提案で実施率80%以上を目指す A-4. 部活動での対外的活動を充実 A-5. 生徒の規範意識向上(アンケート) B. B-1. 各種WG設置と定期的な開催 B-2. WGの企画提案の充実化	A-1. 評価D A-2. 評価B A-3. 評価A A-4. 評価A A-5. 評価A B-1. 評価A B-2. 評価A	A-1. 生徒会規約未完成のため。作成は来年度に見送る。 A-2. 15委員会のうち8委員会が職員会議にて企画提案を実施。 A-3. 8委員会が企画提案した9案件が全て実施された。 A-4. 11の部活動・サークルで述べ13件の対外活動を実施。活動率118%となったためA評価とした。 A-5. 生徒会執行部が年度末に実施。 B-1. 8のWGを設置し年度をとおして活動をおこなった B-2. 各WGで企画会議を実施し前年度からの踏襲だけでなく新しい企画の発案する場を設けた。

評価基準 = A:ほぼ達成(8割以上) B:概ね達成(6割以上) C:変化の兆し(4割以上) D:不十分(4割未満)